

日本の大学への進学のために

その4：帰国受験の最初に

駿台国際教育センター チーフカウンセラー

井原 俊哉

北米で学んでいる皆さんは、今後の進路についてどのように考えていますか。アメリカの大学に進むことを考えている方、日本に戻って日本の大学への進学を考えている方、どちらにしようか迷っている方など様々かと思います。

駿台国際教育センターは、日本に戻って大学受験をされる方々が学ぶ場所ですので、日本に戻る場合にまず最初に意識しておいていただきたいことを述べていきます。

1) 日本の様子を知っていますか

日本の大学を受けるということは、「アメリカの大学ではなく日本の大学を受験する」という選択をした（と日本の大学の入試担当者は考えるでしょう）から、「当然日本の現状に関心を持っているし、日本でやりたいことがある」と思われることになります。つまり、「海外で生活していたのだから、日本について知らなくてもいい」と思っていては、相手の要求に応えられないことになります。

日本に戻るつもりならば、少しずつ日本の状況をチェックしておきましょう。新聞を読んだり、インターネットでニュースを見たりということになるかと思いますが、とはいっても新聞のニュースを読もうとした場合、その記事を読んでいるだけでは解らない背景や流れの理解が必要なが多いことです。したがってある程度の期間、継続して記事やニュースを読まないと解らないことになります（もちろん、歴史や地理、科学の知識などが必要なものもありますから、その場合はその方面の学習をしなければなりません）。したがって帰国の直前になってから新聞に目を通し始めるのではなく、もっと早い段階から、もし毎日が無理なら日曜日だけでもよいので、新聞でニュースをチェックしましょう。また、新聞を見ていく中で、どういう系統の記事が面白いかを考えていくと、自分の関心のある方向が見えてくることもあります。それは受験する学部を選ぶ上での参考になります。

また、自分の進みたい分野については少し細かいところまで見ておきましょう。帰国生の入試では、ほとんどの場合、面接が入ります。その際に志望の理由や将来やりたいことについて質問されます。現在日本でも、政治・法律・教育

などいろいろな分野で問題点が現れています。まず問題点を知ること、そしてそれに対し自分ではどう取り組むのかという主体的な方向性の検討までが必要です。そのためには、新書本や時事問題についてまとめた本に触れてみるとよいでしょう。

2) 自分が住んでいるところを知っていますか

1) で日本を知っておきましょうと書きました。次のステップとして、今皆さんが住んでいるところは日本と比較してどんな様子でしょうか。模擬面接をすると、困ったように「特に何もないですよ」という人がいます。普段暮らしているところですから、それが普通であり、変わったことはないと思ってしまうようです。しかし、日本と比較してみると、その「違い」から自分の住んでいるところが見えてくることがあります。また、保護者の方の職業からその地区の産業、例えば自動車産業が盛んなど、が見えることもあります。また、どれぐらいの人口で日本人はそのうちのどの程度の割合を占めるのか、大雑把にどれぐらいの広さなのかなどもチェックしておき、海外での生活に溶け込んでいたことをアピールするためにも住んでいるところについて説明できるようにしてください。

3) 学校の違いを意識していますか

学校や教育のことについては、皆さん全員が体験していることであり、面接官も大学で学生を教えていることが多いので、面接の場で聞かれやすい項目になります。皆さんは日本の学校に通ったことはありますか。日本の学校を知っている人は人数や授業形態、選択科目など違いを洗い出しておくくと便利です。教育学部志望者の方は双方のよい点を生かす方法を考えておくとよいでしょう。（日本の大学の教授が